

# 平成30年度 事業報告書

西神南あんしんすこやかセンター

## 1. <基本方針>

- ①介護保険制度をはじめとする市町村の介護・福祉行政の一翼を担う機関であることを認識し、公正中立な事業運営を行う。また、地域の特性や実情を常に把握し何事に対しても柔軟に対応をしていく
- ②職員相互で常に情報を共有し、互いの業務の理念・基本的な骨格といったものを理解した上で、連携・協働の体制を整え、地域包括支援センター業務全体をチームとして支えていく
- ③圏域の居宅介護支援事業所・介護サービス事業所・地域と密に連携をとり、地域包括ケアの充実を図る

## 2. <実績>

### ○介護予防ケアプラン数

請求合計3,728件 前年比356件増  
 (直営担当数:1,864件 前年比145件減、委託数1,864件 前年比211件増)  
 月平均は310件(前年281件)で昨年と同水準となっている。  
 新規ケース数は年間135件(前年比2件増)。月平均11.3件。  
 ここ数年はケアプラン総数が横ばいで推移していたが、今年度は356件の増加となった。  
 新規件数は昨年度とほぼ変わらない状況である為、総合事業の開始や要介護に移行するケースの減少などが考えられる。  
 圏域内の人口構成として、60歳前後が多く、今後高齢者人口が爆発的に増える事が予測されるため、次年度以降も請求件数の増加が見込まれる。

あんしんすこやかセンター 月別請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直営件数	150	144	149	149	155	156	162	161	159	156	159	164	1864
委託件数	141	151	158	157	150	146	162	158	154	156	165	166	1864

あんしんすこやかセンター 月別新規件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直営件数	4	4	7	4	7	2	7	3	3	3	9	4	57
委託件数	6	12	4	10	6	4	7	6	3	6	9	5	78
新規合計	10	16	11	14	13	6	14	9	6	9	18	9	135

## 3. <目標に対しての報告>

### ①相談対応の充実

#### 介護者支援の充実

在宅介護をされている方を対象に、年間6回(偶数月)開催。参加者同士が、ご自身の介護体験や悩みを話せる自助グループとしての役割を担っている。窓口にご相談に来られた認知症ケースのご家族や、近隣居宅への開催案内を行ない、新規の利用者も増えている。

また相談者に対し、1月よりスタートした「神戸モデル」はじめとした各種支援を繋いでいくことも行っている。

(内容)

4月25日：こころとからだにやさしい介護

(講師：訪問看護ステーションきらり 理学療法士 香川真二氏)

6月23日：認知症の方の介護について

(講師：デイサービスあさんて管理者 加藤長年氏)

8月27日：納涼・やすらぎの音楽 (河合千佳子氏、鹿島学氏)

10月31日：笑いヨガ (講師：水島寿子氏)

12月20日：クリスマス会

2月26日：介護体験談 (講師：認知症家族の会兵庫県支部代表 河西美保氏)

### 地域力の向上

地域の給食会などで、消費者被害の予防や、フレイル予防等の啓発を行い、高齢者や民生委員への注意喚起を行った。

また、7月に地域で活躍するボランティアを対象とした、スキルアップ座談会を開催し、ボランティアの育成と交流に力を注いだ。

その他、圏域内の喫茶や給食会等に可能な限り参加を行い、必要時参加者への介護予防啓発等を行った。

(参加行事) 西神井吹台住宅集会所：ふれあい喫茶

西神南住宅集会所：バリスタはなみずき リハビリ体操

井吹東地域福祉センター：ふれあい喫茶 ふれあい給食会

井吹西地域福祉センター：給食会

北町地域福祉センター：北町カフェ

櫛谷地域福祉センター：おもと会

ルゼフィール井吹台集会所：バリスタいばしょ すまいる元気体操  
練功十八法 等々

### 地域の関係者との連携

#### ◆圏域の事業所やケアマネジャーとの連携

ニュータウン地区にある他の2つの地域包括支援センター(西神中央・平野西神)と一緒に、西神地区ケアマネジャー情報交換会を開催。

10月には、「認知症になっても安心して買い物ができる街づくり」を目標とし、コープこうべ西神南店と協力して、地域ネットワーク会議(地域ケア会議)を開催。ケアマネジャーや介護保険サービス事業所、民生委員、行政等の合計23名が参加。それぞれの立場から、認知症の方がおられた場合の対応方法や役割について意見交換を行い、有意義なグループワークを行う事ができた。また、地域ケア個別会議に関しては、地域のケアマネジャーから相談された個別のケースに関して随時開催。家族や事業所、参加された地域住民と一緒に検討を重ねる事で、その方についての理解を深め、介護保険サービスだけでなく、地域でのサポート方法等の共有をすることができた。

#### ◆医療機関及び行政との連携

個別地域ケア会議には、必要時圏域内のクリニックに声掛けを行い、看護師の参加もあった。10月に開催した、地域ネットワーク会議には西保健センターや西区社会福祉協議会からの参加もあり、行政や医療との連携も適時行っている。

相談窓口の周知徹底

◆地域住民への周知

圏域内で行われている給食会や喫茶等には可能な限り参加し、その場をお借りして介護予防や介護保険制度についての説明を行い、相談窓口としてのアピールを行った。また、圏域内ふれあいまちづくり協議会の会議や、コープこうべの組合員会議等に参加させていただき、地域の現状やセンターの役割についての説明を行わせていただいた。

◆職員の技術向上

神戸市の必須研修以外にも、外部研修にできるだけ参加する機会を設け、会議にて他の職員への復講研修を行った。  
(参加研修) 神戸地域包括支援センター会研修会、西区医療介護サポートセンター、神戸市介護サービス協会、神戸市成年後見支援センター、高齢者虐待対応力向上研修、等々

認知症事業の啓発

◆認知症サポーターの養成

7月に認知症サポーター養成講座Aコースを、井吹東児童館の子どもを対象に実施した。今後も2年に1回の開催を継続することとなる。

◆認知症支援の充実

昨年度開催したコープこうべとの徘徊ケースの地域ケア会議を踏まえ、徘徊を繰り返す高齢者に対し、店舗の中で見守り体制を構築できるよう、地域ネットワーク会議を開催した。今後はさらに、来年度の認知症声掛け訓練へ発展させていく。

②介護予防の充実

介護予防ケアマネジメントの充実

◆サービス事業所との連携

圏域内にて地域ネットワーク会議を開催。今年度はコープこうべと協力し、店舗の中での見守り体制に関しての検討を行った。地域ケア個別会議においても、実際の事例について、地域と事業者、家族がよい連携が取れるように支援を行った。

◆ケアマネジメントスキルの向上

総合事業の開始や制度の改正などもあったが、神戸市主催の研修にも参加し、適正なケアマネジメントを行う事が出来ている。

介護予防事業への推奨

総合事業の開始や事業対象者の把握等に関しては、神戸市の研修や説明会の内容をその都度センター内でも共有する事でスムーズに事業移行が出来た。

③地域見守りの強化

訪問活動の継続

あんしんすこやかルームエリアに関して、個々のケースのすり合わせを、民生委員毎に小地域支え合い連絡会にて計6回開催した。

地域団体との連携

旧LSA室の廃止に伴い、見守り体制の変更や地域行事の実施内容について、自治会の会議に参加させていただいた。自治会との話し合いの機会を持ったことで、スムーズな移行が出来、その後も大きな混乱はない。

コミュニティ作りの充実

あんしんすこやかルームエリアにおいて、年度内にうたごえ喫茶10回、クラシックいぶき2回、リハビリ体操12回のコミュニティ事業を昨年度と同様に開催。  
また、あんしんすこやかルーム事業の廃止に向けて、うたごえ喫茶の住民主体型行事への移行を行い、31年度4月より住民主体型へ移行する。

4. <<会議>>

		会議名	
開催	あんすこ・居宅内部会議(事業所内)	あんすこ単独会議(事業所内)	
	西神地区ケアマネジャー連絡会	地域ネットワーク会議、地域ケア会議	
参加	支え合い推進員連絡会	西区あんしんすこやかセンター連絡会	
	神戸包括ブロック会議	西区SCS連絡会	
	西区医療連携認知症ワーキング会議	西区地域ケア会議ワーキング	
	職種別連絡会(主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士)		
	各民児協定例会(井吹東・井吹西・櫛谷)、井吹西自治会定例会		
	西区協議体		

5. <<苦情・相談結果報告>>

苦情の定義→センター長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

		平成28年度			平成29年度		
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
		0件	0件		0件		0件

6. <<総括>>

ニュータウン開発25年以上が経過し、団塊世代が多い地域はこの5年で高齢化率が10%以上増と急速な高齢化が進んでおり、認知症を抱えたケースに関する相談が増加傾向にある。  
また、今年度より圏域内高齢者人口が6,000人を超えたため、センター職員が加配となった。プラン総数も大幅に増加しており、前年度より約350件増加。直営件数も増加している。今後もコスト意識を持ち、直営プラン数の維持に努めたい。  
地域ケア会議に関しては、前年度より引き続き実際の個別事例を用いて行い、家族や住民と介護保険事業者の間での情報共有を行うことができ、地域で介護を行っていくための安心感が増したとともに、参加されたケアマネジャーの資質の向上も図ることができた。また、認知症に関する相談の増加に伴い、今年度は圏域内にあるコープこうべとの見守り体制の確立を目指した地域ケア会議を開催。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを今後も地域と一丸となって進めていきたい。